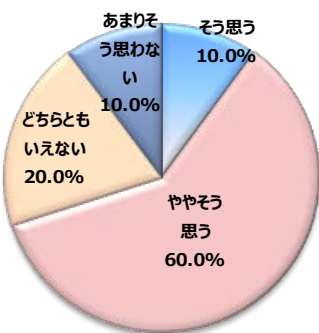


この度は「SRCのための調査活用セミナー」にご参加いただき、誠にありがとうございました。
セミナー終了時に参加者様にご記入いただきましたアンケートとグループ発表の内容をまとめましたので、
開催結果としてご報告いたします。

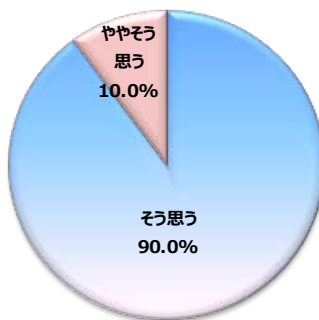
(出席者:12人 回答者数:10人)

■アンケート集計

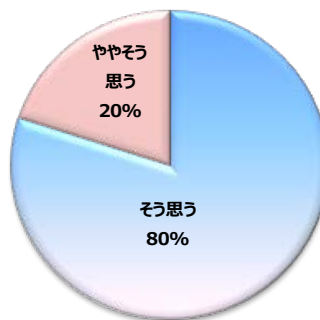
●今回のセミナーへの期待は大きかったですか？



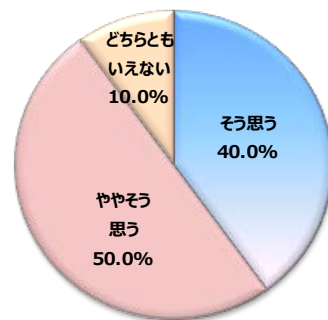
●講師のレクチャーはわかりやすかったですか？



●セミナー全体として満足されましたか？



●今後同様のセミナーがあれば、他の組合員（役員）も参加させたいですか？



■感想コメント（気づき・ご意見）

- 設計意図で結果が変わってくることは承知していたが、**解析も視点が変わるだけで結果が変わってくることも分かった。**
- 設計の前段となる「仮説とモデル」やその調査を通して何をしたいのか（目的）が重要であることが、**改めて確認できた。グループワークの議論で思わぬ観点が得られた。**
- 直近で組合員全員を対象に働き方に対するアンケートをとり、**仕事の実態を把握したいと考えているのでそれに活かしたい。**
- 職場、個人の取り巻く現実を測り、今、直面している現実（問題）を目指すモデルへ変えられるように、きちんと分析し、**職場でのコミュニケーションツールとして調査を活用したい**と思います。
- 組合活動の今後の在り方、**いかに組合員に興味を持ってもらうか、調査して改善していきたい。**
- アンケート作成時にこのセミナーを受講できていれば良かった。集計結果をどう活用するかはこれからなので、**組合員のためになるようにしっかり活用したい。**

- 調査結果を見て納得しているだけではダメ。**データから運動にどう反映させるか、新たな企画にデータの視点を入れていく必要があると思った。
- 連合会（産別）で仕事をしているため、職場視点を忘れていたが、**改めて組合（職場視点）活動の原点を学び、気づきがありました。**
- 非常に楽しく勉強させていただきました。**もう少し長くてもいいくらいだと感じました。
- 今後の調査に大変役立つ研修でした。**

他にも多くのご意見をいただきました。
ありがとうございました。



【事務局より】今回は7組織12名の方にご参加いただきました。
「もう少し時間が欲しかった」というご意見をいただく中、講義とワークを通じて意識調査の重要性、実施・活用するうえでのポイントを掴んでいただけたと思います。セミナーの内容については組織内で共有いただければ幸いです。今後ともよろしくお願いいたします。

株式会社 応用社会心理学研究所（事務局:末田、藤原）

〒540-0031

大阪市中央区北浜東1-8 北浜東森田ビル5F

Tel:06-6941-2171 Fax:06-6941-2081



【調査を踏まえたアクションの実例】

A班

注目した調査結果

- ・女性の「組合活動を担いたい」という割合が低い
- ・組合活動に関わった経験がある人3割 ⇒ 担いたいという割合が低い
⇒ 役員をやった経験からネガティブにとらえているのではないか
- ・若手で強制参加の運動スタイルに嫌悪感が強い

アクションの具体的内容

- ・女性の関りを増やすために、組合活動の在り方を考える。子育てなどで参加しにくいことがある。在宅でできるような活動の在り方を考える。
- ・強制参加の運動スタイルを変える。若手に対して説明責任を果たす。 ⇒ やる意義の理解を促し、若年層の参加を増やす。
- ・社会的視野の拡大に役立つこととして、ボランティア活動を強制でない形で行うことで、一定数の組合員にアピールできる。

ねらいとする効果

- ・女性の参加が増えることで参加意識が向上 ⇒ 成果が上がることで役員をした人にもやりがいにつながり、役員になりたい人が増え、参加関与が向上する。

B班

注目した調査結果

- ・男性20代が役員を担う意志がポジティブ ⇒ 役員を担ってもらおう
- ・積極的に参加したいは6割くらいは「どちらともいえない」 ⇒ 組合の活動を知らない
- ・女性が役員になりたくない ⇒ 家庭などの背景があるのではないか

アクションの具体的内容

- ・社会的視野の拡大→20代の男女が低い = 関与が低い原因
- ・組合活動を知ってもらうためには最初は強制参加をしいても、意義を知ってもらうことが必要
- ・関与の高い食品労組との交流をはかり、関与の高いポイントを自組織に活かす。

ねらいとする効果

- ・世代交代が必要 = 20代を引き上げることで関与が上がる。

C班

注目した調査結果

- ・年齢構成で50歳以下が多い。30代、40代が多い。20代の男性は役員担うことにポジティブ。女性は関心がない。
- ・役立っているとはある程度思っているが、強制参加には抵抗感。これまでのやり方では若い人達の理解は得られにくい。セミナーやイベントにかかわるなどの自分たちがやることには関心がある。
- ・年齢層の高い人は役立っているとは思っているが、理解度・主体性は低い。

アクションの具体的内容

- ・30代、40代のボリュームゾーンの対策が急務。力を入れて関心を持ってもらう。→積極的に企画の段階に巻き込む。組合が企画ではなくて、興味がある人が企画
- ・女性、年齢の高い人については、その対象に特化したセミナーを開いて議論していく。

ねらいとする効果

- ・自分たちが企画に関わることで、組合を理解、良さを理解 ⇒ 役員担ってもいいという人が増える。女性も役員への理解度が上がる。